

概 要 報 告

実施期日	7月29日(火) 【午後】
部会名	小学校 音楽部会

テーマ 『心をひとつに、思いを表現するよろこびが味わえるような音楽活動をめざして』
「ハーモニーを感じて」 —5・6年合同音楽会へ向けての取り組みから—

提案概要

①音楽会に向けて意欲的に取り組むための手立て

目標と方法の共有、選曲、担当声部やパートの希望、ホールのステージ利用効果、実行委員の活動、担任との連携

②主体的な活動を促すための工夫

範奏のテンポの工夫、パート別音源の作成と活用、楽譜の工夫(曲の構成・歌詞記入・移調)、関連資料の利用(曲の成り立ちや情景・他の構成による演奏の鑑賞)、友達とのかかわり(パート練習・聴き合い・教え合い)

③より豊かな表現にするための指導の工夫

拍の流れ(範奏を聴き、拍打ちをしながら1拍目を意識させる)、リズム(大小のコップでリズム作り・リズム唱)、それぞれのパートの役割を知る(ハーモニーやリズムの変化・範奏を聴きながらのリズム唱)、音程の取り方(楽器に合わせて歌う・後ろや横に立ち一緒にゆっくりと歌い合わせる)、発声(まねしながらロングトーン・声量を変える練習・腹式によるスラーやスタッカート)、姿勢(重心を感じてバランスよく立つ)、発音(子音・舌の準備・鼻濁音)、口の形、ハーモニーの部分練習、バランス、鑑賞の経験、歌詞の内容(自分の好きな言葉・情景の変化・心の変化への気づき)、抑揚とメロディー(ことばと旋律・ブレス・アクセント)、曲想について(プリントや掲示物でイメージの共有)、音色

④同学年、他学年との交流や音楽会の振り返り

学年での合唱の聴き合いとアドバイス、他学年とのメッセージ交換、全校へのビデオ放映、リハーサルの見学

質疑概要

①鑑賞の機会を設けているのであれば、評価方法について目安が知りたい。

・姿勢を主にみている。後は発言など「○」や「◎」で表に書き込んでいる。

②楽曲分析を盛り込んでいるのであれば、範奏が邪魔になるのではないか。その対策を教えてください。

・出し方は難しいが、逆の場合を聴かせたり、高い目標(あこがれ)を抱かせたりするような扱い。教師からポイントを教えることもある。

③合奏のウィークポイントを教師がわかるのに、なぜ子どもに指揮をさせているのか。

・教師が何度も舞台に出てもということがある。クラス合奏くらいは子どもにやらせてあげたいと思っている。練習の段階で指揮者とよく打ち合わせをしたり、声をかけたりして指導をしている。

④録音機材はどんなものをそろえて、どのように活用しているのか

・ICレコーダー(テンポやキーを変えられるもの)を用意している。パート練習や個人練習のときに使わせたり、振り返りに使ったりしている。

研究協議概要

部会を5グループに分け、グループで2つの協議内容から1つを選択し協議を進めた。その後グループ協議で話し合われたことを全体で発表し、共有を図った。

①について

・モチベーションの上げ方。子どもに合わせての選曲ではなく、子どもの知らない音楽を提示していく。子どもの引き出しを増やす。以上のことが、教育としての音楽では大事ではないか。

・普段の少ない時間の中にも、色々なリズムを体験させておく(リズムを身に付けさせる)。

②について

- ・ピアノ伴奏のみを聴く活動を通して、パターンや曲想が変わることを感じさせる。それを言葉で表現させ、皆で共有する。
- ・子どもが共感できる歌詞の曲を教材として扱う。
- ・発声、発音などによる違いを感じとらせる。
- ・低学年ではとにかく楽しませることを1番に考える。
- ・技術面で苦手意識をもっている子を引き上げる方法として、2小節くらいを全員に演奏させる。その他、1対1の対応で指導する。グループ学習、子ども同士の教え合いを大切にす等。
- ・高度ではないが、充実感や達成感を与えられる曲を用いる。2重奏等。
- ・教師の願いと子どもたちの願いのギャップの埋め合わせについては、教材をつかって何を指導するのかを頭に入れて選曲する。子どもたちに表現する技術をたくさん与えていくことが大切。
- ・歌詞の内容を音読や朗読で読み込む。言葉の意味を知る。体を動かしてみる。ハーモニーの作り方。子どもが興味をもつ教材の選択。絵で描いて表す。
- ・低学年では身体表現をする場を作ったうえで歌わせると、表情が豊かになった。
- ・選曲が大切。クラスの雰囲気、やりたい曲がクラスに合っているか、子どもとの話し合いで決めていく。
- ・担任と専科との連携を密にとり、クラス経営から音楽の指導につなげていく。

まとめ概要

- ・合同音楽会という大きな目標に向かってのダイナミックなものだった。音楽会というだけで、子どもにとって、意欲をもって取り組めるもの。
- ・思いを共有しながら進めていくこと、持続させていくことができる取組であった。子どもたちにとってはとても貴重な経験である。
- ・押さえるべき指導要領の内容について、教師が目標(ねらい)をもって、子どもの姿をみとっていかなくてはならない。選曲した曲をどのように作り上げていくのか。意欲づけのために子どもに選曲させるための苦労もあったのではない。どの曲であっても、指導したいねらいをもって選曲し、取り組ませるべき。楽しいだけで終わらない。
- ・子どもたちへの提示の仕方、投げかけ方が大事。その後の意欲につながる。指導すべきことは指導する。
- ・子どもと一緒に作っていく素敵な音楽会をこれからも作ってほしい。
- ・子どもたちの興味をそらさないようにしつつ、音楽として教えるべきことを教えている。
- ・苦手意識の強い子もいるが、担任との連携で個別指導を取り入れている。担任の役割がとても重要である。